

会 議 録

会 議 名	平成30年度第1回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成30年5月14日(月)午後2時から3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 上原委員 大熊委員 中嶋委員 日高委員 井上委員		
欠 席 委 員	林委員		
事 務 局 員	藤本生涯学習部長 関生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事 (学芸員) 鈴木(市史編さん担当) 非常勤嘱託職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	無
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成29年度事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 市史編さん委員会、編集委員会議</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 部会の活動</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 市史編さん資料の刊行</p> <p style="margin-left: 20px;">エ 委託業務について</p> <p>(2) その他の事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 市民協力員の活動</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 古文書講座</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 多摩郷土誌フェア</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 平成30年度の事業計画について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 市史編さん委員会、編集委員会議、部会の活動</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 市史編さん資料調査委託について</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 市史編さん資料の編集、発行</p> <p>(2) その他の事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 古文書講座</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 小金井明治村絵図の修復、活用事業</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 多摩郷土誌フェア</p> <p>3 次回の会議日程</p> <p style="margin-left: 40px;">平成30年10月29日(月)午後2時～</p>		

於：市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室

4 配付資料

- (1) 『小金井市史 通史編』章立て (資料 1)
- (2) 小金井市史 通史編 執筆要項 (資料 2)
- (3) 『小金井市史 資料編 考古・中世』章立て (資料 3)
- (4) 小金井市史編さん年次計画 (資料 4)
- (5) 明治 150 年市制施行 60 周年記念小金井明治
村絵図の修復・活用事業
- (6) 市史編さん委員名簿 (平成 30 年 4 月 1 日～)
- (7) 月刊こうみんかん 3、4、5 月号

会 議 結 果

関生涯学習課長 皆様、こんにちは。お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから平成30年度第1回市史編さん委員会を開催いたします。

私は、平成30年4月1日付で生涯学習課長に赴任いたしました関と申します。今後ともよろしく願いいたします。

なお、本日、日高委員につきましては若干遅れるとの連絡を、林委員につきましてはご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告をいたします。

今年度は市史編さん事業の集大成の年であります。事業の完成に向けまして、皆様方から引き続きご指導いただきたくお願い申し上げます。

委員会を始める前に、人事異動等ございましたので、まずはご紹介させていただきたいと思っております。

まず、委員でありました山本教育長につきましては、平成30年3月31日付で退任し、4月1日付で、教育長として新たに大熊教育長が着任いたしましたので、ご紹介させていただきます。

教育長、ご挨拶、よろしく願いいたします。

大熊委員 4月1日付で教育長に就任いたしました大熊と申します。よろしく願いいたします。

私は、平成9年から5年間、小金井市の教育委員会の指導主事として務めさせていただきました。わずかではありますが、小金井の様子を少しは知っている人間であります。そういう立場に立ってみると、今年度、小金井の市史が完成するということは本当に意義深いことで、そのような時期に立ち会わせていただくことを大変嬉しく思っています。

また、小金井市制60周年という区切りの年に、この市史ができ上がるということの意義もやはり大きいものと考えます。現代史というのは、まさに市が発展してきた歴史の上に築かれているものだからです。

市史の完成に向けて、どうかよろしく願いいたします。以上です。

関生涯学習課長 ありがとうございます。

続きまして、4月1日付の人事異動で生涯学習部長に藤本が着任いたしましたので、皆様にご紹介いたします。

藤本生涯学習部長 4月1日付で生涯学習部長に着任しました藤本です。どうぞよろしく願いいたします。

また、委員の皆様には、これまでも市史編さんにご尽力いただきまして大変感謝をしております。また、先ほど教育長が言われたように、今年度は市制施行60周年であることを機に、市史編纂も集大成とのことで、通史編、資料編の考古・中世を刊行予定です。大変限られた時間の中、ご負担をおかけしますが、どうぞよろしく願いいたします。

関生涯学習課長 事務局の体制につきましては、係長の山崎、そして高木及び非常勤嘱託職員につきましては変更ございません。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、この後の委員会の議事進行につきましては、根岸委員長にお願いしたいと思います。

委員長、よろしく願いいたします。

根岸委員長 よろしく願いします。

根岸でございますが、今年度、実質的に最終年度になりまして、編集作業が大詰めになっておりますけれども、ぜひご協力のほど、よろしく願いいたします。座らせていただきます。

1 報告事項

(1) 平成29年度の市史編さん事業について

ア 市史編さん委員会、編集委員会議

根岸委員長 議題にありますように、1、報告、平成29年度の市史編さん事業について、アの市史編さん委員会、編集会議ということでございますけれども、まず、事務局の報告からお願いします。

山崎文化財係長 平成29年度市史編さん事業についてご報告いたします。

29年度の市史編さん委員会は、5月15日、10月16日、2月2日の3回開催いたしました。委員会では、部会の進捗状況や活動についてご報告をいただきまして、市史編さんの方針についてご審議いただきました。

さらに、通史編刊行に向けて編集委員会議を、5月15日、10月2日、10月16日に開催いたしました。会議につきましては、通史編の構成や体裁等について検討いたしました。

以上でございます。

根岸委員長 ありがとうございます。これについて、何かご意見、ご質問ございますか。具体的なことは後からも出てくるかと思っておりますので、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

イ 部会の活動

根岸委員長 続きまして、イ、部会の活動ですが、各部長から簡単にご報告をお願いできればと思います。

初めに、日高委員、考古部会についてお願いいたします。

日高委員 考古部会の報告をいたします。今年度に入ってから、4月に1度、部会を開きました。全体的に資料編の考古は、図面を多く使う巻になりますので、その際の図面の、例えば縮尺のスケールですとか、あるいは方位、北をどういう方位の形で示すかという点も統一をすること、そのような点についての話を詰めまして、一応図面の記号の類い、すとか、あるいはどのぐらいの縮尺のものを出すかというようなところを検討し、ほぼ決定したということになります。

さきほど配っていただいたものが、考古・中世の資料編の章立てになります。この間、編さん委員会でも少しご議論いただいたところでもありますが、『小金井市史 資料編 考古・中世』という題名で本をつくると。中世は文献資料が主なものですので、そういう意味では、今ま

での近世史、近世編ですとか、現代編、そういうところと同じような形の体裁で、縦書きをしていくということになります。考古は、図面等、写真も多く含まれていて、横書きのほうがありがたいということもありましたので、この巻については縦書きと横書き、両方が出てくるというような、やや変則的な形になるわけです。

その章立てですけれども、1章から2章、3章ときまして、裏側の附編の石器石材原産地分析までは横書きということになります。それで、中世の7章、8章、9章が縦書きの体裁でつくっていくということになります。それぞれの執筆の担当者の方々の進捗状況といたしましては、この考古編は、特に旧石器と縄文が小金井市の場合はメインになっていきます。お配りした章立てのところでも、第1章、それから第3章、第4章あたりが、この本の大部分といってもいいと思いますが、そういう体裁になっていきます。

それぞれの、旧石器、それから縄文の進捗状況としては、特に縄文時代の、これまでの発掘で未報告であった資料については、実測等、大分進みまして、それを図面にしているものも、それを市史に載せるということで、前回の4月の会議でも、かなり終わりに近い状態であるということを知っています。ですので、それぞれ執筆に向かって進めているところでもあります。

それ以外の5章、6章あたりは、遺跡の数も少ないので、小金井の資料だけでは何も語れないという状態ではありますので、少しその周辺地域のものも含めて、小金井市のもを位置づけていくという記述にしていくということで、ここら辺も、私と、それから調査員の依田さんで分担して、今、鋭意執筆をしているところであります。

概略、そのようなところですよ。以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。考古について、何かご意見や質問はございますか。編集作業の具体的な話でしたが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、近世ですが、私、根岸が部会長をしております。

近世は、あとは通史を書いてまとめるだけになっておりますが、おわびをしなければならないのですが、まだ原稿が全て集まっておりません。きちんと集まっているのはわずかですが、いろいろなところを執筆者に聞いたところ、7割程度のできではないかと思っておりますので、5月末に向けてもう一度取りまとめるように、今、努力しているところであります。

具体的なところを一つ一つお話すると細かくなりすぎるかと思っておりますので、今のところ、このように原稿を集めている段階であるということだけ、ご報告いたします。

最初は、3月末でしたのが、執筆者の都合など、昨年度の後半になってから急に忙しくなった調査員がいたり等、諸事情により、遅れているところであります。

以上ですけれども、何かご質問があればお受けいたしますが、よろ

しいでしょうか。ありがとうございます。

近代、お願いいたします。

牛 米 委 員 長 近代も近世と同じく昨年度末で通史編の原稿をとということで、昨年の年度末の3月4日に昨年度最終の部会をしまして、それぞれの原稿の進捗状況を踏まえた上での再調整というようなことをして、あとは原稿が出てきたところで訂正しましょうというようなことになっております。ただし、先ほどの近世の根岸先生からもございましたように、私ども近代のほうも全部集まっておりますんで、私が実は書いておりませんで、私、3分の1ぐらいですが、今そのような状況です。

一応、この編さん委員会に向けて、現在の進捗状況を知らせようということで、全員の執筆者から現状報告をさせていますので、それを取りまとめて、大体5月の末ぐらいをめどにして、これからやっていきたいと考えております。

私のほうもおわびということになるので、申しわけございません。

以上でございます。

根 岸 委 員 長 ありがとうございます。近代について、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

では、現代について、中嶋先生、お願いします。

中 嶋 委 員 長 現代部会も3月末の締め切りではできなくて、とりあえず5月の部会までにとということで集めました。全体の7割ぐらいかと思えます。書いたものを見ても、またそれを書き足したり、補筆したりすることが結構多く、枚数や形式も考えていないので、その訂正を考えるとなかなか時間がかかるだろうなとは思っていますが、そういう調整はまた後回しにするとして、体調不良の方もいて、なかなか難しいのですが、6月ぐらいまでには、一応、叙述だけはしておいてということですかね。あと、調整、加筆等、表現の訂正、枚数調整、分量調整等を7月以降にやることになるかと思えます。

根 岸 委 員 長 ありがとうございます。

おおむね近世、近代、現代、同じような状況になっていて、本来でしたら昨年度いっぱい集まる原稿が集まっていないのですが、これから、期限が決まっていますので、それをきちんと見据えながら、計画的に編集作業に、各部会とも入っていきたいと思っております。

部会の活動について、一応そんなところでよろしいでしょうか。この編さん委員会が終わってから、また部会長で集まっていたいて、今後のことについて、あるいは編集作業について、もう少し詰めた問題点を話し合おうと思っておりますので、よろしくお願いします。

ウ 市史編纂資料の刊行

根 岸 委 員 長 それでは、続きまして、ウ、市史編纂資料の刊行、これは高木さんからでしょうか。

高木主事(学芸員) 私から報告いたします。

お手元にお配りしましたブルーの冊子が市史編纂資料となります。

平成29年度は資料編の第57編として梶野家文書(2)を発行しました。こちらの梶野家につきましては、江戸時代に梶野新田を開いた旧家でして、多くの古文書が残されており、その中、少しずつ計画的に、現在発行している途中の段階でございます。平成28年度に第1巻目、平成29年度は第2巻目ということで、順次出していく予定となっております。以上が編纂資料についてのご報告となります。

根岸委員長 ありがとうございます。これについて何かご意見、ご質問ございますか。

非常に漢字だらけの、一見難しいものですが、例えば3ページの宗門人別帳という江戸時代の戸籍ですが、江戸時代のものなので、個人情報としては問題ないと、ほかのところでも考えられておりますけれども、少なくともこのようなところから、当時の家族状況ですとか、特にこれをずっと並べていきますと、子供がどう成長して、どう結婚してとか、いつ当主になってというような研究資料として大変重宝がられているものですし、農民たちの当時の、村人たちの生活の一端がわかるような資料が多く入っております。

大部分は年貢関係の細かい数字になっておりますが、それも見ていきますと、年貢を通して、当時の家の、生活の規模がわかるとか、あるいは村入用帳というのがありますけれども、村の自治のためにどんな経費が使われているかというような、そんな資料などもありますので、このようなものをきちんと刊行していく、ずっと続けているのは多摩では小金井だけだろうと思いますが、そのような意味では大変貴重な事業になっているかと思えます。

これについて、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

エ 委託業務について

根岸委員長 それでは、続きまして、エ、委託業務について、これも高木さんですね。

高木主事(学芸員) 委託業務につきましては、2つございます。

まず、1つ目は、市史編さん調査資料委託というところで、市内の遺跡から出土しました黒曜石の分析を行いました。分析については、高い専門性と実績を有する東京学芸大学との共同研究で実施しております。内容は、旧石器時代から縄文時代の黒曜石を対象としまして、分析結果、こちらは『資料編 考古・中世』に掲載されます。まずこれが1点目。

2つ目は、考古資料の写真撮影委託というところで、こちらは同じく『資料編 考古・中世』に掲載するための写真撮影を専門業者にお願いしたところですが、遺跡、考古学の情報をわかりやすく説明するためには、写真を多く使って説明することがやはり求められておりますので、この辺の観点で写真撮影を行った次第です。

2つの委託を昨年度の事業として行ってきましたので、報告いたしました。以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。

これについて何かご意見、ご質問、ございますか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

(2) その他の事業について

ア 市民協力員の活動

イ 古文書講座

根岸委員長 では、(2)その他の事業については、事務局からご説明をお願いします。
高木主事(学芸員) 続きまして、私のほうで、その他事業のアとイをご報告いたします。

まず、アの市民協力員の活動ですが、こちらは市史編さんのために主に資料の収集や調査をお願いしています。長年お願いしております畑野さんに加えまして、小金井市内の石仏でしたり灯籠の石造物に精通している閑野さんにも委嘱をしてご協力いただきました。現在、お二人の市民協力員をお願いしているところです。

続いて、イの古文書講座につきましては、これは毎年行っている講座です。3回行いまして、2月24日、3月3日、3月10日、連続3週の3回実施しまして、延べ86人が受講されました。

講座の講師には市史の考古部会の調査員でもあります、東京学芸大学准教授の下村先生をお願いしました。

少し内容を報告しますと、タイトルは「史料に探る中世の小金井」と題しまして、南北朝時代の武蔵野合戦における小金井地域を舞台とした合戦を題材にさせていただきまして、中世の古文書の基礎知識や時代背景もあわせて解説していただきました。

古文書講座の中では、例年、江戸時代、近世の資料を使った講座が大半を占めておりましたので、今回のように中世の小金井をかいま見れたことは受講者には大変好評でした。

続いて、ウの報告をお願いします。

ウ 多摩郷土誌フェア

山崎文化財係長 多摩郷土誌フェア、これは例年、東京都市社会教育課長会文化財部会の主催により毎年実施しているものです。

多摩地区の教育委員会等が発行しています郷土誌関係の出版物を一堂に集め、展示することにより、多くの人々に紹介し、希望者には有料頒布するということが、普及を図ることを目的としております。

1月20日、21日の2日間、立川市の女性総合センター、AIMにおいて実施いたしまして、参加自治体は24市町でした。

販売実績は、昨年度33冊、8,900円に対し、これは小金井市だけですけれども、今年度は35冊、1万7,600円という結果でした。

詳細につきましては、前回の資料のとおりです。

以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。

その他の事業について、何かご意見、ご質問ございますか。お願いします。

中 嶋 委 員 石造物の調査ですけれども、どのくらい終わって、どういうふうな形でやっているのかということと、あと、過去の石造物調査というのが多分あると思うんですが、そういうものと照合もされているのかなという質問です。

高木主事(学芸員) 中嶋委員からのご質問ですが、市内には主に室町時代からの宝篋印塔と呼ばれている石造物から、それこそ江戸時代を経て明治時代、大正時代まで、例えば戦争が終わった記念碑も含めて石造物として、対象として調査をしております。

実は以前にも、畑野協力員によって石造物の確認調査をされておりますが、そこから大分時もたちましたので、また、劣化ぐあいも含めて現在調査を、確認している途中でして、まだ全くもって完了しているわけではありません。

数も、おそらく広範囲の時代を対象としますと、かなり膨大な数になります。石造物の一部の、お墓も石造物の対象としてみなすことも、最近学会では認められておりますので、そういうところも含めると、かなりの数に上ります。これは時間をかけて地道に調査を続けていきたいと思っておりますので、現在、具体的な数と具体的な進捗割合というのはなかなか提示できませんので、ご了承ください。

根 岸 委 員 長 中嶋さん、よろしいでしょうか。

中 嶋 委 員 あと、石造物について、資料で使うことがあるので聞きたいのですが、畑野さんがされた過去の調査というのはリスト化されているのでしょうか。碑銘とか、そういうのは全部記録されているのでしょうか。

高木主事(学芸員) 畑野さんの調査内容は一覧表にまとめられております。石に刻まれている銘文はわかる範囲では判読していただいて、文字にも起こしております。

中 嶋 委 員 結構です。

根 岸 委 員 長 よろしいですか。特に近代以降の石碑などは通史としても非常にいい資料ですし、畑野さんあるいは閑野さんの成果を、ぜひ中嶋さんのほうでも使っていただければと思いますので、見ていただければと思います。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。

2 議 題

(1) 平成30年度の事業計画について

ア 市史編さん委員会、編集委員会、部会の活動

根 岸 委 員 長 続きまして、2、議題に入ります。

(1)平成30年度の事業計画についてですが、まず、事務局からご提案いただきます。

高木主事(学芸員) 私から、平成30年度の事業計画について、まず、アからご説明いたします。

まず、この会議、市史編さん委員会は、本日を含めまして、合計3回を予定しております。

今後の予定につきましては、会議の最後に改めてご説明いたします。
編集委員会議は、より市史編さんの内容について議論を行う場ですけれども、市史編さんの構成や原稿の内容確認について、引き続き会議の中で協議、検討を進めてまいります。

今年度は、ご承知のとおり、60周年の目玉事業としての市史編さんですので、今年度は通史編、そして、資料編の最後である考古・中世をそれぞれ発行いたします。この2本立てで行ってまいります。

そして、部会の活動では、主に考古部会におきましては、資料編作成に係る活動を継続してお願いいたします。

全ての4部会、考古、近世、近代、現代部会におきましては、通史編の原稿の進捗に応じて、適宜会議を開催していただければと思います。

根岸委員長
関生涯学習課長

お願いします。

続きまして、通史編の原稿につきましては、事務局にて編集していきますが、委員の皆様、提出された原稿を送らせていただきますので、今後、事前の内容確認をお願いしたいと思います。原稿をお読みいただきまして、委員の皆様、さまざまな視点でお気づきの点、ご不明な点等、ご教示を頂戴いたしまして、通史編をまとめていきたいと思っております。以上でございます。

根岸委員長

ありがとうございます。今の課長のお話ですけれども、通史編の内容を編さん委員が出るまで全く知らないというのは、やはり編さん委員会で出すわけですので、編さん委員にそれを見ていただいて、あるいは感じたこと、あるいは事実関係で疑問のあるところとか、そういうところは一応見ていただきながら、編さん委員会全体で市史をつくっていく責任を持ちたいというような、そういう意図で今の提案があったかと思えます。

これについて、いかがでしょうか。もちろんその前後に編集委員が集まりまして、さまざまな調整はしますし、それに編集委員を中心に、さまざまな疑問に対してお答えしたり、あるいは加除を加えていったりする必要があるかと思っています。

大熊委員

学校教育の立場から一言申し上げたいと思います。

さまざまな形で新しいことに目が向いている最近の教育ですが、やはり小学校、特に中学校において、小金井の歴史を知るということはものすごく重要だと思います。歴史の先に未来があるので、どのような歴史踏まえて今があり、そして、これからどの方向に進んだらいいのかと考えるときに、この市史の編さんされている内容というのは貴重な資料になるかと思えます。そこで、ここの市史に書かれている内容が事実と異なっていたり、そんなことはないと思いますけれども、やはり後世に残すものとしてしっかりとした編さんをお願いしたいところです。

子どもたちもこれを参考にして、勉強になる資料ということも大切な視点でありますので、その辺、どうかよろしくお願いいたします。

根岸委員長

ありがとうございます。編さん委員会でも、学校教育で使われる著作でなければいけないだろうというような認識を持ちまして、用語など

については、教科書で使われているようなレベルの用語をなるべく使いたいというようなことを申し合わせております。

大熊委員 もう一つ、この本を子どもたちが各自で使うというのはとても難しい。ただPDFにさせていただいて、インターネットに載るとか、これからの話になりますけれども、やはり活用していきたいと思っています。そのためには、今、さまざまなデバイスを子どもたちに配っているところもありますので、そういうのを使えば十分にこういう資料が使えると思います。子どもたちが読んでわかる資料にならないと、難しい面はあるかと思いますが、教育委員会の立場からして、一言よろしく願いしたいと思うところであります。よろしく願いいたします。

根岸委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。編集委員の先生方、よろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 ありがとうございます。

イ 市史編さん資料調査委託について

ウ 市史編纂資料集の編集・発行

根岸委員長 では、続きまして、イの市史編さん資料調査委託について、これも事務局からお願いします。

高木主事(学芸員) イの古文書調査委託につきまして、報告でもお伝えしました梶野家文書が、文書数として約1,000点を上る膨大な資料群のため、現在、鋭意調査を進めております。そのために、専門家の方に、いわゆる難しい文字をわかりやすく整えるための翻刻作業というのを委託しているわけです。こちらの作業は例年行っておりますので、引き続き調査委託を行ってまいりたいと思います。

先ほどもお話ししたように、梶野家、こちらは江戸時代中期に新田を開いた家として、現在もご子孫の方はお住まいになっております。貴重な資料につきましては、現在市に寄託をされておりますので、資料化を整えるような形となっております。

今年度、その上で、こちらはウの話になってまいります。市史編纂資料の編集・発行、今年度は続いて第58編の市史編纂資料集を予定しております。梶野家文書としては第3巻目となります。こちらにも既に終わっている翻刻された資料の中から、古文書の一部を事務局で編集して、このような本にまとめる形で現在動いておりますので、今年度の第3回目の作成を行う予定となっております。

根岸委員長 ありがとうございます。この梶野新田、梶野家文書の(3)をつくる作業を行うということになるかと思いますが、よろしいでしょうか。何かご質問、ご意見、ございますか。

梶野家文書、現物が、穴があいたり虫に食われていたりして、非常に読みにくくなっておりまして、この梶野家文書を見ても、時々、括弧でくくってあって、そこが空白の部分ですとか、あるいは白い四角の部分がたくさんありますが、それは虫が食っていたりして、あるい

は穴があいていて読めない部分です。

それから、真っ黒になっているところがありますが、これは今度は墨で塗りたくりまして、文字が見えないところ、大体消して訂正しているというのがそういうところですけども、あるいは隅つきパーレンという黒い濃い括弧で囲まれた文字がありますが、それは墨で塗られているのですけれども、前の文字がかろうじて見えるというような、そんなところをここに出しておりまして、そんなことが判断できる人をお願いをしております。

これについて、よろしいでしょうか。

では、続きまして、ウ、市史編纂資料の編集・発行、これも同じことになりますか。

高木主事(学芸員) 今、説明した内容となっております。

根岸委員長 では、これについて、よろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 ありがとうございます。

(2) その他の事業について

ア 古文書講座

イ 小金井市明治村絵図の修復・活用事業

ウ 多摩郷土誌フェア

根岸委員長 それでは、(2)のその他の事業について、これは一括してお願いできますか。

高木主事(学芸員) その他でお伝えする事業は3件ございます。

まず、私から1件、2件まで説明いたします。

1点目は、報告でも行いました古文書講座を今年も実施することとなっております。古文書講座は小金井地域に残る古文書をテキストにして、古文書に親しむための入門講座となっております。ですので、古文書を読むことが難しくても、詳しく専門家のご指導のもと、少しずつわかっていく内容となっております。こちらは来年の2月から3月にかけて実施する計画です。

2点目は参考資料として別途お配りした写真の資料をごらんください。「明治150年」と大きく書かれている参考資料がございますが、ご説明しますと、市制60周年事業の一環で、実は非常に大きな村絵図でございます、この村絵図の修復をまず進めてまいります。

この事業は、国による「明治150年」の関連事業にも位置づけられているものですので、明治150年、市制施行60周年記念という2つの冠がついている事業となっております。

少し内容をご説明いたしますと、村絵図については、明治時代に入っただけでなく作成された地図でして、貫井村で2枚、小金井村で1枚となり、合計3枚の大きな村絵図を修復することとなっております。この地図につきましても、明治時代以前の小金井地域を視覚的に確認できる大変貴重な村絵図です。さらに特筆するところは、1枚の大きさは縦、横がお

よそ2.5メートルの非常に大型のものです。虫食いによる損傷が激しいため、部分的に、完全に穴があいて、場所によってはくっつけられない状態になっております。この修復について、専門業者に委託して作業を行うということです。

修復だけではなくて、現在、活用が求められている時代ですので、修復後はデジタルデータ化し、さらに、複製品の作成まで行います。要するに、本物はかなりデリケートなものなので、なかなか表に出しにくいですが、そっくりなものを今後展示、またはいろんな場所で公開するという目的で、このような内容が含まれているわけです。全て複製品までの作業が完了した後、今年の11月に東京文化財ウィークというイベントがありますので、そのイベントに合わせて、村絵図を一挙公開する特別展示を開催する予定です。

まずは、展示場所としては、小金井市文化財センターで、持ち運びができますので、随時公共施設の中で巡回展などを検討してまいりたいと思います。

山崎文化財係長 30年度の多摩郷土誌フェアがございまして、1月19日(土)と20日(日)、昨年度と同様の立川市女性総合センター、AIMの一部を会場としてお借りして販売を行う予定でございまして、近くなりましたら、各自治体で発行しています書籍のリストができますので、皆様にお配りしたいと思います。以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。以上、古文書講座、小金井の明治の村絵図の修復や活用事業、多摩郷土誌フェア、3点につきまして、何かご意見、ご質問ございますか。よろしいでしょうか。

日高委員 参考までに、もしお聞かせ願えればと思うのですが、村絵図の修復活用事業は、業者はもう決まっていますか、渡してあるのですか。

高木主事(学芸員) 既に業者は契約で決まっています、お渡しして、もう作業に入らせていただいています。これから5月、6月、7月で修復を進めて、適宜デジタルデータ化を図るという形になっておりますので、おそらく複製品については9月後半、10月にかけて作成されるという見込みになっております。

根岸委員長 よろしいでしょうか。ほかにいかがでしょうか。お願いします。

井上委員 章立てに関係して、ちょっと気がついた点だけ確認させてください。

最後の第五章、今日の小金井市へのところで、第三節、多様化する価値観で、障害児のことを書いていただいている、目配りをきかせていただいているありがたいと思いましたが、学童保育への障害児の受け入れのことも、もしわかれば書いていただけるといいのではないかと思います。

私の、現在31歳の息子が小学生だった時代ですけれども、この時代に入るかと思えます。自宅から遠い学童保育所でしか障害児を受け入れられなくて、自分の小学校にある学童保育所に行けないことが、問題になっていたことがあるのです。受け入れについて、私は詳しくは知らないのですが、逆に言えば学童保育所が障害児を受け入れたという事実でもあるわけで、もしもその点について詳細が分かれば、加えて書いてい

ただけるといいのではと思いました。

それと、もう一つですけれども、戦後の青年団、青年会のことが入っていますけれども、青年学級についても触れられるのでしょうか。というのは、私が小金井市に引っ越してきたときに、青年学級の勧誘のチラシが電柱に張ってあったのですね。今でも、小金井市って青年学級があるのだと、興味深く見ていて記憶にあるのですけれども、もしかしたら、青年団の活動の一環かもしれないし、公民館の一環かもしれないですけれども、1950年代からずっと青年学級がありましたので、小金井市のは全然知らないですけれども、もしもわかれば書いていただけるとありがたいと思いました。

根岸委員長
中嶋委員

これについて、中嶋先生、いかがでしょうか。

章立てがここに出ていますけれども、大体なので、まだ小見出しがはっきり決まったわけではないので、また追加して入れていく予定になっています。

自分自身が書いたところだけで言いますと、1970年というか、第四章のところに、学童保育における障害児の受け入れの問題とか、青年学級の問題についての記述があります。障害児の青年学級についても、それらを含んで社会教育のところに入れてあります。小見出しになるかどうかわかりませんが、多分重要なことなので、入れていく予定にしております。

井上委員
根岸委員長

どうもありがとうございます。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

先ほどの明治期の地図の修復ですが、デジタル化をするときに、ぜひ部分撮りしていただいて、文字がきちんと見えるように工夫していただきたいと思います。非常に細かい文字が書かれていて、大きい画面で1枚だと、拡大するとそれがぼやけるということが、時々ほかの絵図などではありますので、そこら辺は気をつけていただければと思います。お願いします。

高木主事(学芸員)

根岸委員長からご指摘とご意見がありましたので、もう少し補足させていただきますと、まさに今後のデジタルデータ化の活用というところでは、かなり進むものと予想されますので、それを見越して、かなり細かい、画素数の高いカメラを使った上で撮影をお願いしております。おそらく最初は分割してきれいに撮って行って、まずそれが一つのデータとなります。最終的にはそれを重ね合わせて、くっつけて1枚のデータとなるという作業の工程となります。後々、画面上で写真を見るときには、かなりズームアップして文字を見ますので、その辺に対応できる、しっかりとしたカメラで、撮影環境が整っている業者をお願いしているので、その辺は再度お願いしたいと思います。

根岸委員長

お願いします。

それから、もう一件ですけれども、かつて小金井市史の地図編というのが50年ぐらい前に刊行されたときに、小金井の部分、現在の小

金井市域は、当時は貫井村と小金井村の2つに分かれていまして、今も明治初期には貫井村と小金井村という話が出たのですが、かつて小金井村の絵図だけは大きなポスター大の絵図にして頒布されたことがありますので、何か絵図を付録としてつけるとか、そんなことも市史でできるか、あるいは後で市史編纂資料の中でそれをやるとか、そんな工夫をして、すばらしい地図で、現在の小金井市域を見る基礎になる、どういうふうに変わっていくかというのを見る基礎になるものですし、江戸時代の村絵図と違って、わりときちんとしていますので、そういう意味でも使える絵図です。見せる公開だけではなく、手にとったり、使えたりする公開を考えていただくと非常に助かるかと思えます。

高木主事(学芸員) 根岸委員長からのご指摘は、ほんとうにおっしゃるとおりで、ぜひ市民の方が手にとって、まちを歩いていただけるような冊子、本は必要だと認識しております。昨今、古地図は人気がありますので、現代地図と古地図をあわせてまちを歩くというのは、一つ需要があります。その辺は、現在の市史編さんに対応できるか、もしくは今後、資料化した上で頒布するという計画を考えて、検討してまいりたいと思います。

根岸委員長 お願いします。
ほかにいかがでしょうか、ご意見、ご質問。
もしなければ、議題として、今年度の事業について、ご承認いただけますでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 ありがとうございます。

(3) 次回の会議日程(予定)

根岸委員長 では、(3)次回の会議日程について、お願いします。

山崎文化財係長 お手元に本日お配りしました委員の名簿、こちらは、4月1日から変更がありましたので、それを反映させまして、その下に開催予定の日程を入れ込んでございます。前回のときの欠席者の方には、ご都合を確認いたしまして、ご了解いただいておりますので、10月29日、月曜日の午後2時からが次回の開催予定となります。

根岸委員長 次回、10月29日の午後2時からということによろしいでしょうか。それでは、そのようにお願いいたします。

以上で議題は終わりました。委員の先生から何かご意見、あるいはご提案などございますか。よろしいでしょうか。

なければ、本日の会議はこれで終了いたします。どうもありがとうございました。